

「楽しい授業作りの世界 ～算数・数学編～」

10月25日(金)に第6回瀬戸内まなび塾を行いました。今回は、瀬戸内市立畠久中学校の森指導教諭を講師として、先生方と一緒に勉強しました。

今、求められている学習指導(授業改善)は、「子どもたちに教えることが上手な先生」よりも、「子どもたちに考えさせることが上手な先生」にどれくらい近づけるかが大切だと考えています。

今回の学びを他教科にも生かして、子どもたちが考える学習活動のある授業づくりに取り組んでいきましょう。



終始、「これがここにつながるのか!」と目からウロコなお話でした。今までは教材を見て「どう教えようかな」と考えているばかりだったので、これからは「どう学ばせるか」を視点に授業づくりをしていきたいです。

他教科のことを知る機会が今までなかったので、算数・数学の考え方、授業実践を知るすばらしい機会となりました。

「生徒をいかに学ばせるかが大切。説明が多すぎるのは負け」という言葉が頭に残っています。

既習事項を思い出させ、今まで学習したこととつなげて学ばせることが大切だと分かりました。自分たちでやってみて、分かった、できたと思わせる授業をしたいと思いました。

子供のつまずきから授業を考えることがとても大切だと分かりました。どこにつまずきやすいか、自分でよく考えた上で授業をつくっていききたいと思いました。

連続10分の学びをつくること、なぜそうなるのかを考えさせる授業、問いを使って概念を考えさせるということ、「どうやらそうかな～」という授業づくりの視点、等々、教材をみる視点をいただくことができました。

$50(x+4) = 70x$ この式の意味・・・なかなか考えさせることができていません。
 $-20x = -200$ とても参考になりました。ありがとうございました。
 $20x = 200$

自分の普段の算数の授業が、学びが深まりにくい授業だったのかなと反省しました。授業の教師の発言や、授業前の教材研究も、工夫の余地がたくさんあるように感じました。

子どもの目線からみて、どこがどう難しいのかということを考えさせられました。「(学力調査では)ファクターが1つ増えると正答率は10%落ちる」というのがイメージしやすく、これからも意識していきたいと思います。

私自身算数が苦手です。でも数学を学習してから、「ああ、こういうことだったのか」とつながることが多くなり、苦手だけど考えるのが好きになっていきました。子どもたちが既習事項を思い出して、使ったり実際にやってみて理解していったりできるように、教材研究をして授業に臨みたいと思いました。

